



切腹ピストルズ（和楽器集団）
総隊長

いだ だんこう
飯田 団紅 さん

その活動は多岐にわたり、昨年の「ど田舎にしかた祭り」では、和楽器の演奏で会場を大いに盛り上げた切腹ピストルズの総隊長 飯田さんにお話を伺いました。



切腹ピストルズ公式サイト



荒々しさと滑稽さ
私（広報担当）がはじめて切腹ピストルズのステージを見たのは、昨年11月のど田舎にしかた祭りの取材の最中でした。
和太鼓を叩きながら、会場を練り歩く集団の姿と和太鼓や笛、三味線の音圧に圧倒されました。飯田隊長の鉦を合図に、彼らのパフォーマンスはさらにボルテージが上がります。
野良着姿で一心不乱に和太鼓を叩き、怒りすら感じるその表情からは百姓一揆を、ステージ上での、どこか滑稽さを感じる立ち振る舞いからは、日本古来の陽気な村祭りを連想させます。荒々しさと滑稽さのバランスが切腹ピストルズの大きな魅力のひとつだと感じたものを飯田さんにつづけると「ありがたい嬉しいよ」と照れた笑顔をみせてくれました。

日本人が忘れてしまったもの
全国で20数名の隊員を抱える切腹ピストルズのリーダーとして、隊員をまとめるコツについて尋ねると、「わからない。自分は旗を振っているだけだよ」また、「11月のステージを見たお年寄りが涙を流していたそうだけど、理由は分からないだよね」
飯田さんが追い求める音楽には、日本人が元来持っているはずなのに忘れてしまった何かに触れるものがあるのかもしれない。

移住のきっかけは？
都内出身で、若いころはパンクロックに憧れ、海外でも生活をされていた飯田さん。10年前、ご家族の出身地である西方町の神社で目にした大沢田太々神楽の和太鼓や笛、その佇まいに魅了され、ご自身も参加することに決めます。この出会いが栃木市に移住を決めたきっかけだと教えてくれました。また、この太々神楽の活動は、現在の切腹ピストルズのヒントにもなったそうです。「いつの間にか敷居が高くなってしまった和楽器だけど、もつと土着で、身近なものだったんだ。歴史を調べると面白いよ」と話してくれました。
移住して10年、栃木市の魅力については、「言葉では上手く言えないけれど、良いところなのは実感してる、大好きだよ。それに程よくシャイで控え目で、それでいてタフな栃木市の人が好きだね」

渡良瀬遊水地ヨシ焼きを実施します

貴重な湿地環境の保全、ヨシに寄生し周囲の農作物に影響を及ぼす害虫の駆除、野火による周辺家屋への類焼防止などを目的として、渡良瀬遊水地全域でヨシ焼きを実施します。

実施予定日 3月4日（土）8時30分～
（荒天時は以下の日時に順延）
第1予備日 3月 5日（日）
第2予備日 3月11日（土）
第3予備日 3月12日（日）

実施・延期の決定

当日朝6時に最終決定

当日の実施・延期は、インターネットまたは電話にてお知らせします

・（一財）渡良瀬遊水地アクリメーション
振興財団ホームページ

<http://watarase.or.jp>

・電話による自動音声案内 ☎（62）0915

※風向きや上昇気流により灰や煙が広範囲に飛散し、洗濯物への付着、庭や屋根への降灰など大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

※前日の17時から、ヨシ焼き終了後に安全が確認されるまでゴルフ場等一部を除く渡良瀬遊水地全域が関係者以外立ち入り禁止になります。

☎ 渡良瀬遊水地課 ☎（62）0919



②案内役の與儀さん（左）と足立さん（右）

「洪水の水がめ」の原型がここに

「100年前の渡良瀬遊水地と今」展

ハートランド城で3月12日まで開催中（入場無料）



③

渡良瀬川の流れる東に移され、巴波川も改修されて洪水を減らすのに役立つ。蛇行していた渡良瀬川は、私たちが地図の中を手で囲っている渡良瀬遊水地です。この時の工事で外周の周囲堤が完成し、現在の「洪水の水がめ」の器が出来上がったのがわかります。蛇行

谷中湖がハート形の理由は
本展は、利根上の倉庫に保管されていた改修図面を一年をかけて修復したうちの8点を展示しています（写真④）。知恵を絞ったのが、100年前などと現在の姿を見比べて違いや謎を解き明かす企画。各地図の前の「解説パネル」をたどると、「へえ〜」そうだったのか」と理解が深まって「遊水地の事情通」になる仕掛けです。
昨年末、「恋人の聖地」に認定された谷中湖が「なぜハート形なのか？」もその一つ。地図と現在の姿を比較（写真⑤）すると、旧谷中村の中心部に北側が重なります。後に作られる谷中湖は計画では丸い形でしたが、役場跡などを残したい旧住民の強い要望を受けて凹んだ形になりました。深い歴史の上に遊水地の成り立ちがあります。



ハート型の谷中湖を古地図に重ねると…

遊水地の原型が一目で
会場に入ると、ひときわ華やかな地図が目飛び込んできます（写真②と③）。100年前の1922（大正11）年ごろ制作の「渡良瀬川改修竣工図」です。縦1.5m、横3m。竣工式典で飾られました。精緻な地図に、木々や足尾の山々を描き入れ、また気球やコウノトリなど愛嬌あるイラストも随所に配して、祝賀気分がいっぱい。
見どころは、私たちが地図の中を手で囲っている渡良瀬遊水地です。この時の工事で外周の周囲堤が完成し、現在の「洪水の水がめ」の器が出来上がったのがわかります。蛇行

治水の強化は今後も
大川秀子市長をはじめ関連自治体は合同で、遊水地の治水事業促進を要望されています。首都圏と地域を洪水から守る上でも、国交省では引き続き遊水地内で堤防整備に用いる土を採取して掘削を進め、治水機能を強化する方針です。

台風19号で過去最高の洪水貯留
こうして出来上がった原型の上には、100年間かけて治水と利水の機能が強化されて来ました。
第1が「調節池化」です。カスリーン台風（1947年）などを機に、渡良瀬川や巴波川などに沿って遊水地内に3つの調節池を作り、効率的に洪水調節できるようにしました。
第2が「貯水池化」です。水需要の増大に伴って、首都圏などの生活用水の供給のため国内初の平地型ダム谷中湖が1990年に完成。
こうして台風19号では過去最高の約1億6千万m³、貯水容量の95%まで貯留したのです。会場では、わかりやすい解説のビデオも常時流れていますのでぜひどうぞ。



①

栃木市に大きな被害をもたらした台風19号（2019年）で、洪水を貯めて流域の被害を減らしたのが渡良瀬遊水地でした（写真①）。その「洪水の水がめ」の原型が整ったのがちょうど100年前。当時の貴重な地図を紹介する展覧会が、市渡良瀬遊水地ハートランド城で開かれています。遊水地を管理する国交省利根川上流河川事務所（利根上）の専門家が紙上で案内します。
案内役 今の遊水地の姿…保全対策官の足立誠さん
展示の見どころ…専門調査官の與儀亜希子さん
☎ 渡良瀬遊水地課 ☎（62）1301



④